

2023年9月25日

カニクイザルの結核症例について

国立大学法人滋賀医科大学長 上本 伸二
動物生命科学研究センター長 遠山 育夫

2023年9月22日、滋賀医科大学動物生命科学研究センターで飼育されていたカニクイザル（7歳5ヶ月、雌、2022年8月23日死亡）が結核菌に感染していたことが判明しましたので、お知らせ致します。

なお、現時点で、当センターにて飼育している他のサルに感染した事実はなく、上記サルと同室だったサルは隔離飼育し経過観察中ですが、それ以外のサルは、通常通りの飼育を実施しております。

結核診断までの経緯

当該サルは、2019年12月6日に当センターに搬入されたもので、輸出輸入検疫を含む3回の検疫検査を受け、2019年12月26日までに総計5回のツベルクリン検査を受けましたが、すべて陰性でした。

また、当該サルは、特別な飼育室（陰圧管理、HEPA フィルターによる外部空気との隔離）において個別ケージで飼育をされており、他のサルとの直接接触はなく、当該飼育室に入室する教職員もごく限定されておりました。

2022年8月23日に急性胃拡張症候群で死亡した当該サルを剖検したところ、肺門部に小結節が認められたことから、結核に感染していたことが疑われました。

2022年10月7日に当該サルの病変部にチールネルゼン染色陽性の抗酸性桿菌が検出されましたので、遺伝子診断を試みたところ、PCRによる結核菌の検出ができず、非定型抗酸菌感染症と一旦は判断しました。しかし、実験系を改良して改めて検証を進めた結果、結核菌遺伝子を検出し、結核菌に感染していた可能性が再燃しました。そこで、確定診断のため、本年8月16日に公益財団法人結核予防会結核研究所に標本を送付し、遺伝子診断を依頼しましたところ、9月22日に結核菌陽性の結果が通知され、結核と判定するに至りました。

本学における対応状況

2022年8月23日に同室で飼育されていた36頭のサルについては隔離を行っております。2022年8月30日にこれら36頭のサルにツベルクリン検査を実施しましたが、結果はすべて陰性でした。さらに、2023年2月17日に、再度ツベルクリン検査を実施しましたが、結果はすべて陰性でした。また、2019年12月に当該サルが搬入されてから死亡するまで、同室にて飼育されていたすべてのサルについて追跡検査をしたところ、ツベルクリン反応を含め、異常所見は認められませんでした。他の部屋のサルも順次、ツベルクリン検査を実施しており、これまで陽性の結果は出ておりません。

当センターでサルを取り扱う教職員・スタッフには、全て結核検査を実施しておりますが、異常所見は認められませんでした。現在、さらに対象を拡大し、当該サルに接触した可能性のある者について追跡調査を行っております。

今後は保健所と密接に連絡を取りながら、該当する飼育室のカニクイザルについては、引き続き飼育室間の移動を禁じ、結核の兆候がないか経過をみていく予定です。また、すでに結核検査を実施した教職員についても、定期的に健康状態の確認等のフォローアップをしていく予定です。

今後、共同研究機関を含め関係者の皆様にも情報を共有しながら、厳正な管理・運営体制をとって参ります。ご迷惑をおかけしますが、ご理解、ご協力の程どうぞよろしくお願い申し上げます。

本件に関する連絡先

滋賀医科大学研究推進課

e-mail: hqshien@belle.shiga-med.ac.jp

TEL: 077-548-2020